

Title	種子植物分類学文献データベース (TAXA) の検索法
Author(s)	岡田, 博
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1992, 87, p. 53-61
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/65995">https://hdl.handle.net/11094/65995</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 種子植物分類学文献データベース (TAXA) の検索法

大阪大学教養部生物学教室 岡田 博

## 1. データベースの概要

生物科学の文献データベースは1980年以降の文献に限り、本学の計算機センターに収録されており (BIOSIS)、改めて生物学のデータベースは必要ない様に感じられます。しかし、植物分類学は学問としての歴史が古く、またその論文の寿命(?)も長いので、1979年以前の文献でも参考にせざるを得ない事が多々あります。このような事情があって個人的にまとめていた文献データベースを植物分類学に興味を持つ人のために一般公開したのがこのデータベースです。元々個人的な文献データベースから出発したもので、収録の仕方に偏りがあったり、また不足していたりなど不十分な点が多いと思われませんが、とりあえず公開することにしました。今後少しずつ補充してできるだけ充実させていく予定です。知らない文献が出てれば儲け物というくらいの軽い気持ちで利用していただければ幸いです。

## 2. 収録対象分野

種子植物の細胞遺伝学、細胞分類学、種生物学、分類学、生殖生物学、個体群動態、生物成分、系統学などの1980年以前の文献を中心に約20,000件収録した。

## 3. データの種類

収録したデータは以下の5項目である。

- a) 論文表題 (TI: TITLE)
- b) 著者名 (NM: NAME)
- c) 雑誌名 (MG: MAGAZINE)
- d) 発表年 (YR: YEAR)
- e) キーワード (KW: KEYWORD)

## 4. 検索の仕方

すでに本センターからオンラインサービスをしているBIOSIS、または日本の化学文献データベース (CHEM-J) と同じ仕方で検索と出力表示ができるようになっている。従って、詳しくは利用の手引「BIOSISデータベース」第2版1991年12月大阪大学大型計算機センターまたは、日本の化学文献データベースの検索法 (大阪大学大型計算機センター・ニュースVol.19、No.3、75号、p.51、1989年11月) を参照してほしい。

以下に実際の検索例を示す。アンダーライン部分は検索者が入力する部分で、<CR>はRETURN キーを意味する。網掛け部分は表示される文字をあらわす。また困ったときにはHELP または ? と入力するとどうすればよいかの指示が得られる。

端末からセンターにつないだ後

```
SYSTEM?? TAXA<CR>
```

と入力すると次の画面が現れる。

```
*****
* Welcome to TAXA *
* Caution !!! For an infrigent of copyright. *
* Don't output to f.d. or disk file etc. *
* TAXA command Ver. 4.0 (91/07/01) *
*****
```

```
Start ins. of RETRIEVE procedure.
```

```
Browse, Search, Display, Print, Option, Finish
<B/S/D/P/O/F>?
```

いきなり何の事が分からないのでHELPと入力してみる

```
<B/S/D/P/O/F>? HELP<RC>
```

すると以下のようにHELPメッセージが表示される

```
Select a command from the following:
B or BROWSE : Browse 15 words near the specified one
S or SEARCH : Search data using the query
D or DISPLAY : Display retrieved data
P or PRINT : Offline print at the Center
HI or HIST : List session history
IS or INQU : Save queries to file
LL or LENG : Set display line=length (DATA710 or BANDAI format)
MC or MESS : System message on/off
CA or CAPT : Display message in capital
JM : Display message in Japanese
LP or LIST : List of file content
```

```

DE Delete file
LC or CATA List of catalog and file name
BE Bell
NE or NEWS Display system news
PS Pause display
F or FINISH Terminate database searching and exit
HELP Display help message

```

```

Browse, Search, Display, Print, Option, Finish
<B/S/D/P/O/F>?

```

この状態で入力待ちとなる。試みにオプションを表示する命令Oを入力する。

```

<B/S/D/P/O/F>? O<RC>

```

すると、何を行いたいのか聞いてくるので、適当な命令を入力する。

```

History, Inquiry, save, Message, Line length, Capital,
Japanese message, List file, Delete file, List catalog, Bell,
page size, News, End
<H/I/S/M/E/L/L/CA/JM/LP/DF/LC/BE/PS/NE/E>?

```

この場合、英語の表示ではよく解らないのでJMと入力し日本語表示に切り替えてオプションを終了した。なお最初から日本語表示にしたいときにはこのデータベースに接続するときに「SYSTEM?」で「TAXA T=J」と入力すればよい。

```

<H/I/S/M/E/L/L/CA/JM/LP/DF/LC/BE/PS/NE/E>? JM<RC>
Display in Japanese message <Y/N>? Y<RC>
オプションを保存しますか<Y(はい)/N(いいえ)>? N<RC>

```

これ以降日本語表示となり、元の入力待ちの状態になる。

```

キーワード通覧(B) 検索(S) 表示(D) 印刷(P) オプション(O) 終了(F)
<B/S/D/P/O/F>?

```

そこでキーワード通覧せよの命令Bを入力する

```

<B/S/D/P/O/F>? B<RC>

```

すると、項目を聞いてくる

題目名は?

論文表題について知りたいのでTIを入力する

題目名は? TI<CR>

すると知りたいキーワードをきいてくる

キーワードは?

GESNERIAという語が含まれる論文の件数を知りたいのでGESNERIAと入力する

キーワードは? GESNERIA<CR>

すると以下のように表示される

```
No. Record Keyword (Item#TITLE)
%001 1 GERSTEL
%002 1 GESAMMELTEN
%003 1 GESCHICHTE
%004 1 GESCHLECHTLICHE
%005 2 GESICHTSPUNKTE
%006 1 GESLACHTSTABELLEN
%007 1 GESNERIACEAE
%008 2 GESNERIA
%009 84 GESNERIACEAE
%010 3 GESNERIADS
%011 1 GESNERIEAE
%012 2 GESNERIOIDEAE
%013 2 GESNERIOIDES
%014 8 GEUN
%015 5 GEUNSLA
表示を続けますか<Y(はい)/N(いいえ)/E(切り替え)>?
```

続けるか、終了するか、あるいは他の項目に切り替えるのか聞いてくる。付加語の項目の中にあるかも知れないのでKEYWORD(KW)に切り替える

表示を続けますか<Y(はい)/N(いいえ)/E(切り替え)>? E<RC>

項目名は? KW<RC>

キーワードは? GESNERIA<CR>

No. Record Keyword (Item=KEYWORD)

%016 3 GEOGRAPHY

%017 3 GEOLOGY

%018 20 GERANIACEAE

%019 1 GERANIUM

%020 1 GERBIUS

%021 1 GERM

%022 24 GERMINATION

%023 22 GESNERIACEAE

%024 1 GIENSA

%025 1 GILIA

%026 4 GINKGO

%027 1 GINKGOACEAE

%028 1 GLACIATION

%029 1 GLADIOLUS

表示を続けますか<Y(はい)/N(いいえ)/E(切り替え)>?

大体何件くらいあるのか分かったのでキーワード通覧を終わる

表示を続けますか<Y(はい)/N(いいえ)/E(切り替え)>? N<RC>

再び元の入力待ちの状態になる。

キーワード通覧(B)、検索(S)、表示(D)、印刷(P)、オプション(O)、終了(E)  
<B/S/D/P/O/E>?

ここで検索を実行する。検索せよという命令Sを入力する

<B/S/D/P/O/E>? S<RC>

すると、何を検索するのかきいてくる。

質問式は?

先程調べたGESNERIAについて検索する

なお、質問式、条件式で使う比較式はBIOSISと同じである

記号	意味
EQ =	等しい
NE ^=	等しくない
NR :=	大きくかつ最も近い
GT >	大きい
GE >=	大きいか、等しい
LT <	小さい
LE <=	小さいか、等しい
WL <>	範囲内 (両端を含む)
OL ><	範囲外 (両端を含まない)

質問式は? TI=GESNERIA\$ OR KW=%23<CR>

これで検索が始まり、答えが返ってくる

#01 100 RECORDS

質問式は?

100 件の文献が見つかり、この質問式解答に #01 という番号を付けて一時保存する。この #01 に納められている 100 件の文献の中からさらに CHROMOSOME という語を含んでいる文献を二次検索する。

質問式は? #1<CR>

すると条件をきいてくる。論文表題に CHROMOSOME の語のある論文をまず調べる

条件式は? TI=CHROMOSOME<CR>

条件式は?

他になければ <CR> を入力すると二次検索が始まる

質問式は? <CR>

#02 8 RECORDS

8 件の文献があった。さらに #001に納められている100 件の文献の中から付加語にCHROMOSOMEの語のある論文を調べる

質問式は? #1 <RC>

条件式は? KW=CHROMOSOME <RC>

質問式は?

他になければ <CR>を入力すると二次検索が始まる

条件式は? <CR>

#03 1 RECORDS

質問式は?

ここで #02と #03のどちらかに含まれている論文の全てを含んだ集合を作る

質問式は? #2 OR #3 <CR>

#04 9 RECORDS

質問式は?

GESNERIAとCHROMOSOMEに関連した論文は 9件見つかり #04に一時保存された。その中で1965年より前の論文を知りたいのでYEAR(YR)の項目にその条件を入力する。

質問式は? #4 <RC>

条件式は? YR<1965 <CR>

#05 4 RECORDS

質問式は?

結局、4 件の論文が見つかった。検索が1つ終わるごとに、「質問式は?」に戻るからここで検索を終わらせるために<CR>キーだけを入力する。すると1つ上のレベルに戻る。

質問式は? <RC>





YEAR:1962

表示が終わると、再び表示するのか、改めて検索し直すのか、あるいは全てを終了するかきいてくる。

表示形式は? Taxa形式(T) Data形式(D) End Finish  
END/ESC

この場合、終了するのでFと入力する

END/ESC F<RC>

以下の表示をしてTAXAを終了する

End of TAXA 99/12/31 23:59:59

SYSTEM?

問合せ先：大阪大学教養部生物学教室 岡田 博 (06-844-1151 内5326)

付 記

本データベースの開発は、主として大阪大学大型計算機センター研究開発計画の一環として行われ、平成4年12月1日よりサービスを開始します。